

北海道各地から産出する黒曜石
その63

～分析方法と各組成グループについての特徴～

～その2～

(3) 滝川組成グループ

主に旭川地域やその下流域にあたる北空知地方から採取される。表面部分が溶けて固まったような滑らかな触感がある他、結晶をほとんど含まないため光にかざすと透けて見えるのが特徴的であり、これだけでも区別可能である。美葉牛(A-1)、碧水(A-7)、碧水(B-1)、碧水(C-11)、東鷹栖(B-22、25、27)、中山(A-9)、中山(B-3)、大和(A-11)が、この組成グループに属する。図1においてCaO/Al₂O₃比が、0.057～0.059の値を示し、且つ図2において、Al₂O₃値が北海道内から産出する黒曜石中では最も低い方の値である11.96～12.12wt.%を示すのが特徴である。

(4) 白滝Ⅰ組成グループ

十勝石沢川から採取される。この組成グループは、図1においてCaO/Al₂O₃比が、0.031～0.033の値を示し、北海道内から産出する黒曜石中では最も低い値になるのが特徴である。また図2においてもCaO値が0.40～0.42wt.%を示し、これも道内から産出する黒曜石中では最も低い値になる。梨肌でにぶい光沢を呈するので、肉眼でも区別し易い。

(5) 白滝Ⅱ組成グループ

赤石山山頂付近から採取される。この組成グループは、図1においてCaO/Al₂O₃比が、0.041～0.044の値を示し、北海道内から産出する黒曜石中では、白滝Ⅰ組成グループに次いで低い値になるのが特徴である。また図2においてもCaO値が0.53～0.56wt.%を示し、これも道内から産出する黒曜石中では白滝Ⅰ組成グループに次いで低い値になる。

(6) 名寄組成グループ

名寄地域から採取される。この組成グループは、図1より留辺蘂Ⅰ組成グループ、旭川Ⅰ組成グループ、十勝Ⅱ組成グループ、豊浦組成グループにも近似している。しかし名寄組成グループと比べると、留辺蘂Ⅰ組成グループは、図2においてAl₂O₃値が12.83wt.%以上であること、旭川Ⅰ組成グループはTiO₂値が0.11wt.%以下であること、十勝Ⅱ組成グループはCaO値が1.13wt.%以下であること、豊浦組成グループはCl値が0.15wt.%以上であることから区別できる。更に、十勝Ⅱ組成グループと豊浦組成グループについては、肉眼だけでも名寄組成グループと容易に区別可能である。

(7) 赤井川組成グループ

赤井川地域から採取される。図1より他の組成グループにも近似するが、図2において、Cl値が0.16wt.%以上の高い値であることから容易に区別可能である。

※図1、図2は、地学シート No.65、No.66を参照

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

Mukai Masayuki
(学芸員 向井 正幸)

旭川市博物館HP

